看護師復職 支援に期待

〝即戦力〟お産の場も

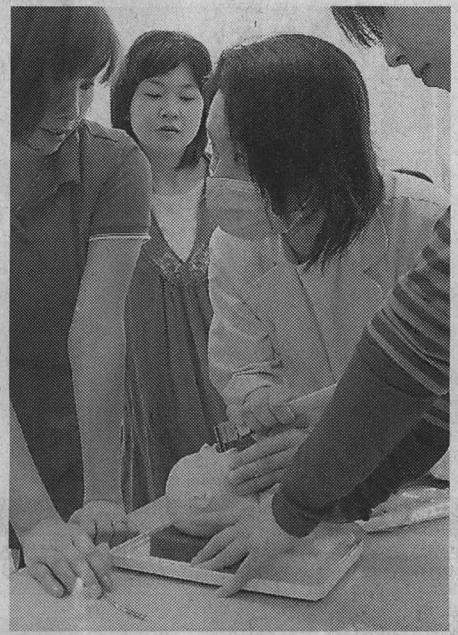
●岡山大

お産の現場の人手不足の解消や、地域の子育て力アップを図るために、助産師や看護師を経験した人たちの力を借りようというユニークなプログラムもある。岡山大学大学院保健学研究科の中塚幹也教授らによる、「妊娠中からの母子支援」の即戦力育成プログラム。助産師や看護師を対象に、全15回の講座で、超音波検査や分娩（ぶんべん）管理法などの最新知識や、DV、性教育などを教える。

岡山大医学部で5月末にあった講座には約20人が参加。新生児の呼吸障害や仮死についての講義や、新生児の人形を使って蘇生の仕方を学ぶ実習があった＝写真。「あごをこちら側に圧迫すると、気管がよく見えます」。講師のアドバイスに、受講生は真剣な表情でうなずいていた。

助産師で15年ほど現場を離れている倉敷市の主婦（47）は「これだけブランクがあると、もう実習生以下」。子育てが一段落し、復職を希望しているが、進歩した医療技術についていけるか心配だという。「復帰して人の役に立ちたいので知識を身につけたい」と受講理由を話した。

中塚教授は「結婚や出産で離職した看護師らがなかなか復職に至らないのは大きな損失」と考え、講座を開設した。自身のライフサイクルにあわせて地域のボランティアに参加するなど、子育て支援にかかわってもらい、地域の母子支援体制の強化にもつなげたいという。



取材後記

多様な雇用形態 支える研修制度

西医療センターの研修では、当時の看護師長が笠井さんの採血の練習のために腕を貸してくれたそうだ。外来では現在、11人の看護師が非常勤で働く。笠井さんは「子どもが大きくなったら常勤も考えたい」と言う。丁寧に指導し、それぞれの思いを尊重して多様な雇用形態を認めれば、人は集まってくるに違いない。働く側と雇用する側、互いの本気度が伝わる広島県の研修のような事例の広がりに期待したい。（辻）

ご意見お寄せください

中国5県共通の医療や福祉の記事を毎週木曜に掲載します。ご意見、ご感想を朝日新聞岡山総局「医療」の係へメール（okayama@asahi.com）か、〒700・0815　岡山市北区野田屋町1の12の11まで郵送でお寄せください。

続き